手指骨性牽引用キルシュナー氏鋼線 穿通器

D. M. Meekison, M. B., (Vancouver) 著 (J. Bone
& Joint Surg. Vol. XIX, p. 234, 1937.)

次に述ぶる器具は手指末節骨に於て直達性牽引を患指に施行する
必要のある時、例之手指複雑骨折その他種々なる場合に使用する
目的で考案せられたものである。此目的にはキルシュナー氏鋼線

が最適であるが、圖示の
如く適宜の長さに切り、
その先端を「ランセット」
狀に扁平鋭利とする。此
器具の把柄は圖示の如く
「バルブ」の手狀であり把

握に好都合となつて居る。此把柄の末端中心には把柄中に插入さ
るべき鋼線を固定確保する目的で止螺旋があり、此には圖示の如
き小翼狀部がついて居る。此器具を使用するには鋼線を把柄に固
定したる後穿通すべき手指を木製枕の上に置き、爪部を前後に或
は末節側方より捻ぢ込む様にするか或は押して刺込む様にすれば
鋼線の穿通は眞に容易である。穿通したならば適宜の長さに切斷
し、此の兩端に彈性「バンド」或は紐を用ひ、例之杵狀副木に牽引

固定すればよい。

(野崎抄)

「メニスクス」摘出用器械

Harold G. Lee, M. D., (Boston, Massachusetts) 著
(J. Bone & Joint Surg. Vol. XIX, p. 460, 1937.)

膝關節の「メニスクス」損傷に際して、此れが全摘出を行ふべき必
要があることがあるが、
膝關節前内方よりの手術
野に於て「メニスクス」全
摘出を行ふには特殊の器
械を用ひねば甚だ困難で
ある。述者の使用する器
械は圖示の如きものであ
るが、圖示中の鉤狀の器
具は「メニスクス」を離動
せしめるのに用ふ。又圖
示中の兩刃を有する器具
は「メニスクス」後方附著

部を切離するのに用ひられるものである。此際先端部が鈍性にな
つて居るのは關節面を損傷せぬ様考慮されたものである。(野崎抄)